

行動経済学・社会心理学の知見を活用した人間行動分析

研究内容

態度変容や行動変容に関する現象を理解し、実社会における行動変容の促進や意思決定の改善を促すことを目的に、統計分析や因果推論、データマイニングなどの手法を活用しています。具体的には、個人の意思決定や行動の背後にある要因を明らかにするために、行動経済学の理論や実験デザインを活用します。また、社会心理学の理論を援用し、社会的影響や規範の役割を解明します。さらに、統計分析やデータマイニングを用いて行動の背後にあるメカニズムを明らかにしたり、因果推論の手法を適用して、特定の介入が行動に与える効果を評価します。本研究は、理論と実践の融合を通じて、人間行動の理解と改善に貢献することを目指しています。



安価な人流計測装置の開発

地域・産学連携の可能性

具体的なテーマとして以下のようなものがあります。

- 消費者の行動パターンや意思決定プロセスを解析し、効果的なマーケティング戦略の開発
- 健康行動や生活習慣の変容や改善を促進するための介入プログラムの開発
- 持続可能な行動への態度変容、行動変容を促進するための啓発活動やプログラムの開発
- 地域住民の交通行動パターンを分析し、地域交通の基礎データを作成
- 地域の防災意識向上や適切な避難行動の促進に関する研究
- 人や車などの交通量計測装置の開発
- 各種データ分析(基礎的な統計分析、多変量解析、共分散構造分析、ベイジアンネットワーク等)や各種計量経済モデルの適用等に関する技術講習



自由活動の訪問場所予測分析

このテーマに関連する東北SDGs研究実践拠点 防災・減災技術研究拠点

このテーマに関連するプロジェクト研究所 安全安心モビリティ研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標



態度行動変容ツールの開発例



工学部 都市マネジメント学科 行動分析、交通計画

菊池 輝 KIKUCHI Akira

教授、博士（工学）

URL <https://www.jicoojin.com/CEM/in/s/kikuchi/>

執筆論文

角力山柊・佐藤智晴・菊池輝・泊尚志（2021）認知的負荷が運転操作等に及ぼす影響、土木学会論文集 D3、76/ 5、I_1353-I_1360



KeyWord

態度変容、行動変容、統計分析、因果推論、データマイニング、認知バイアス